

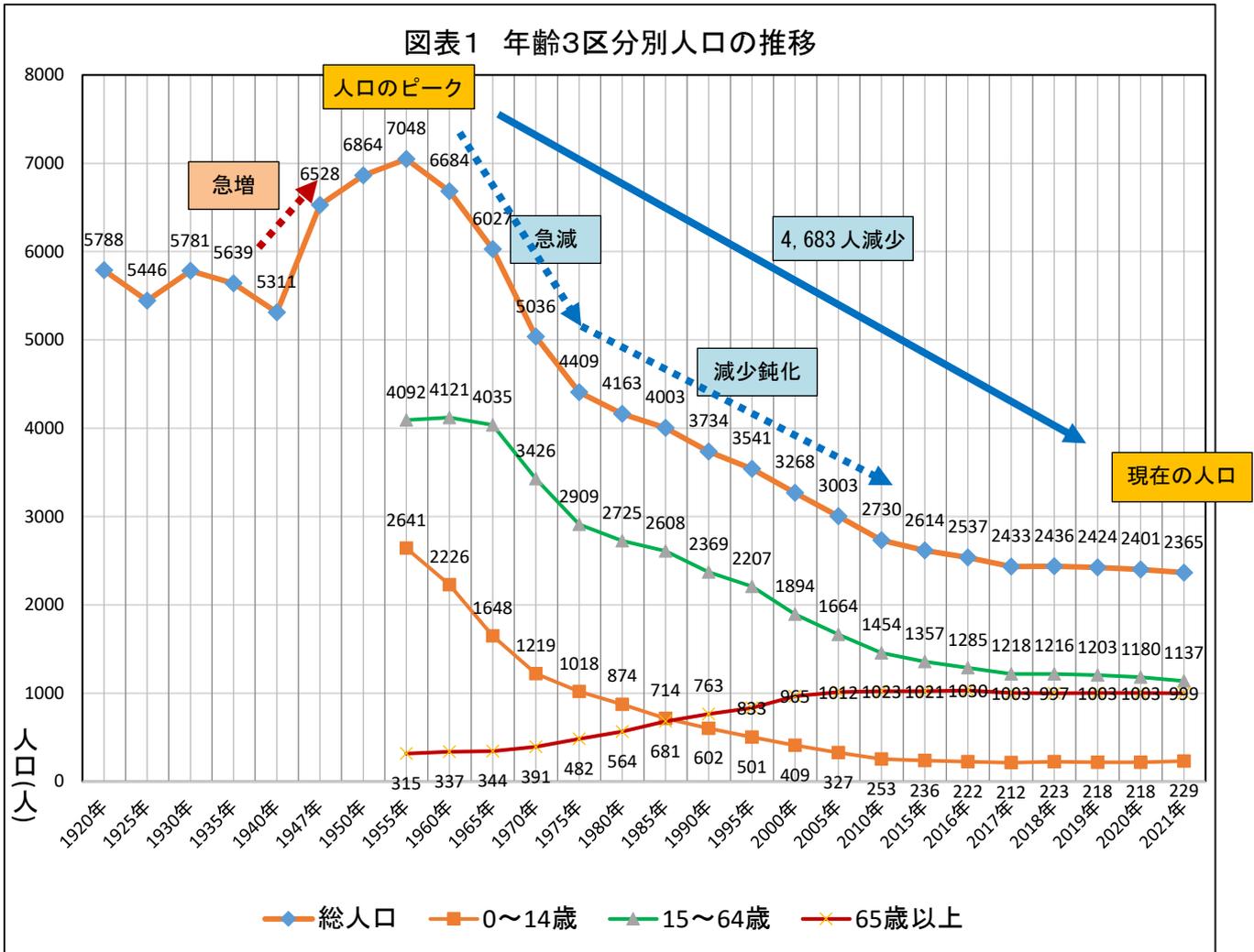
資料編

《2020年(令和2年) 人口に関する資料》

秩父別町

1. 総人口の推移

○本町の人口は、戦後、急増し、1955年(昭和30年)には7,048人に達し、その後、高度経済成長期に伴う都市部への人口流出等により急減した。
 ○1975年(昭和50年)以降は、減少率はやや鈍化したが、現在まで人口減少が続き、2021年1月では2,365人となった。



※1920～2010 総務省「国勢調査」、2015～2021「住民基本台帳情報」1月1日現在人口

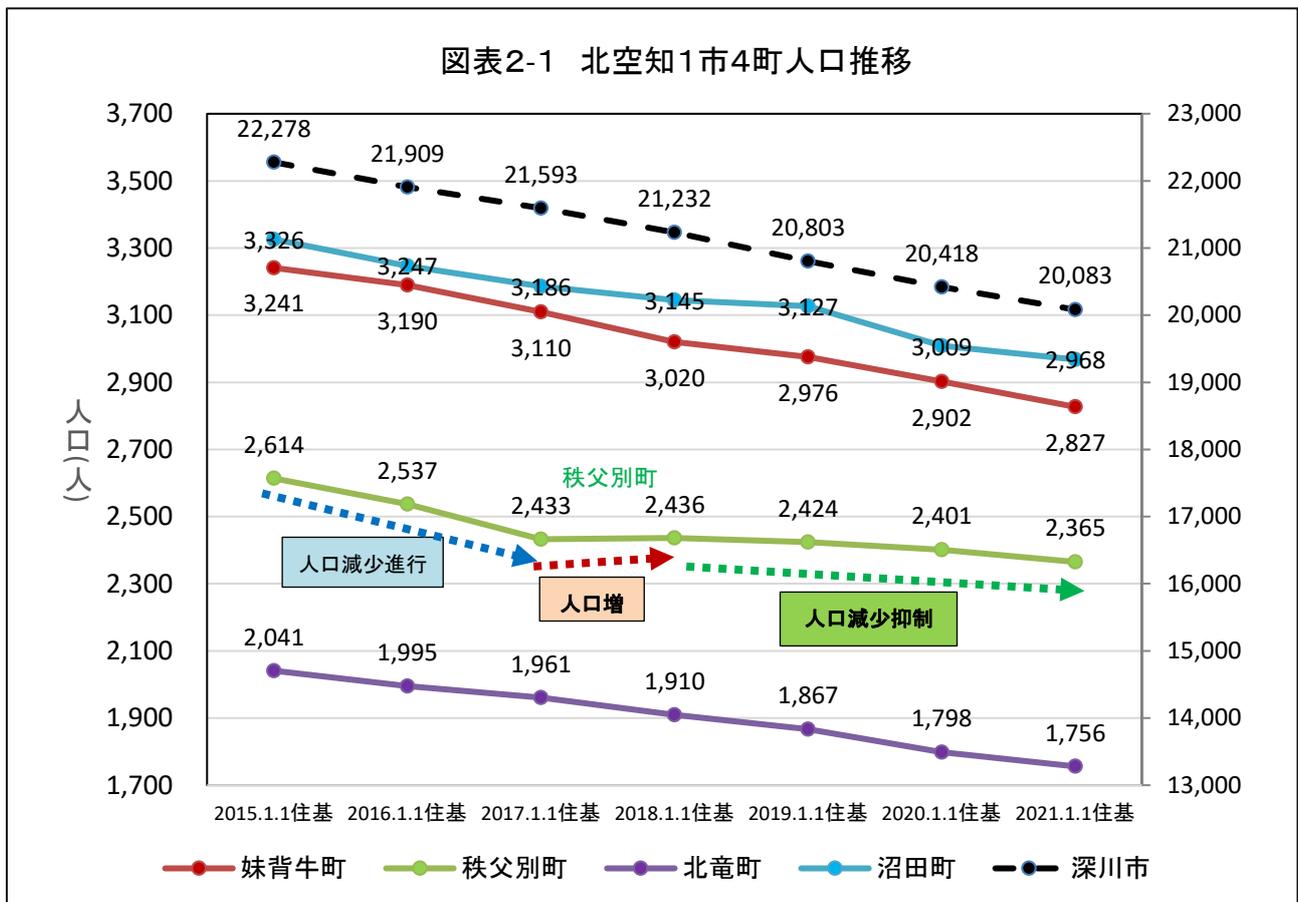
2. 直近の北空知1市4町の人口推移

○第1期秩父別町人口ビジョンを策定した2015年の人口は2,614人であったが、2017年には2,433人となり2年間で181人減少し、人口減少が進行した。

○2018年は、前年比3人増の2,436人となり、34年ぶりの人口増となっている。また、2019年は前年比12人減の2,424人となったが、2年間で9人の減少となり人口減少が抑制されたといえる。

○2020年は、前年比23人減の2,401人、2021年は、前年比36人減の2,365人であった。2年間で59人減少であり、人口減少抑制傾向は弱まってきている。

○2015年～2021年の期間では、1市4町すべて人口減少となった。秩父別町は6年間で249人減少、年平均では41人が減少している。減少率は1市4町の中で最も低かった。



図表2-2 北空知1市4町人口減少率

住基情報	2015.1.1住基	2021.1.1住基	減少数	減少率	年平均減少率
深川市	22,278	20,083	-2,195	9.9	2.10
妹背牛町	3,241	2,827	-414	12.8	2.25
秩父別町	2,614	2,365	-249	9.5	1.90
北竜町	2,041	1,756	-285	14.0	2.50
沼田町	3,326	2,968	-358	10.8	2.10

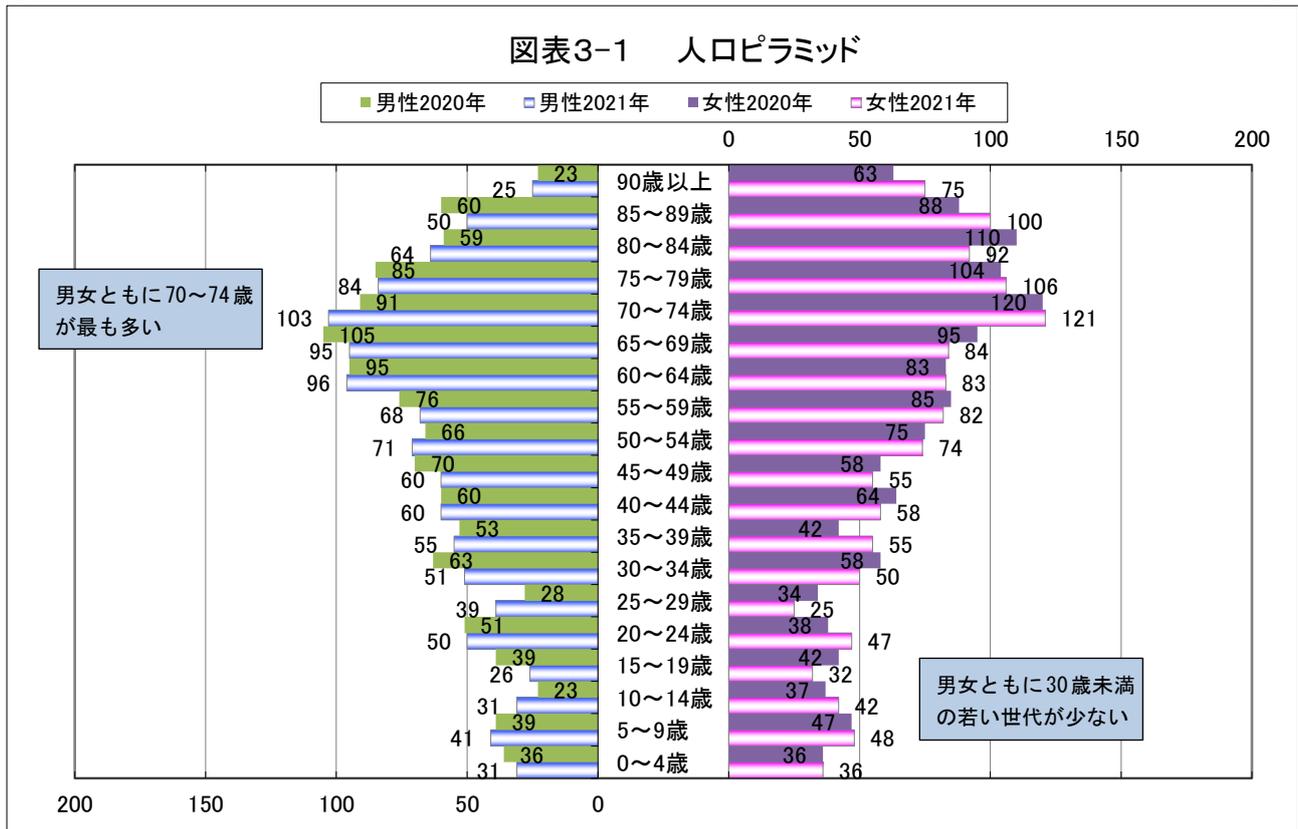
減少率は最も低い

※住民基本台帳(秩父別町)

※各市町広報(各市町)

3. 直近の年齢区分別人口比較

- 2021年1月の総人口は2,365人、2020年1月と比較すると36人減少している。
- 年齢区分別で見ると年少人口(0~14歳)11人増加、生産年齢人口(15~64歳)43人減少、高齢者人口(65歳以上)4人減少した。
- 年少人口の増加は、2020年の14歳人口が同年の出生数より大幅に少なく、2021年になって14歳人口が生産年齢人口区分に移行したことが要因となっている。
- 2021年の男女別人口は、男性1,100人、女性1,265人、総人口に対する男女比率は約47:53あり、概ね横ばいで推移している。



図表3-2 総人口・3区分別人口

区分	総数(人)	年少人口(人・割合)		生産年齢(人・割合)		高齢者(人・割合)	
2020年	2,401	218	9.1%	1,180	49.1%	1,003	41.8%
2021年	2,365	229	9.7%	1,137	48.1%	999	42.2%
増減数 人	△ 36	11		△ 43		△ 4	
増減割合 %	△ 1.5	5.0		△ 3.6		△ 0.4	

図表3-3 男女別人口

区分	男性				女性			
	総数	年少人口	生産年齢	高齢者	総数	年少人口	生産年齢	高齢者
2020年	1,122	98	601	423	1,279	120	579	580
2021年	1,100	103	576	421	1,265	126	561	578
増減数 人	△ 22	5	△ 25	△ 2	△ 14	6	△ 18	△ 2
増減割合 %	△ 2.0	5.1	△ 4.2	△ 0.5	△ 1.1	5.0	△ 3.1	△ 0.3

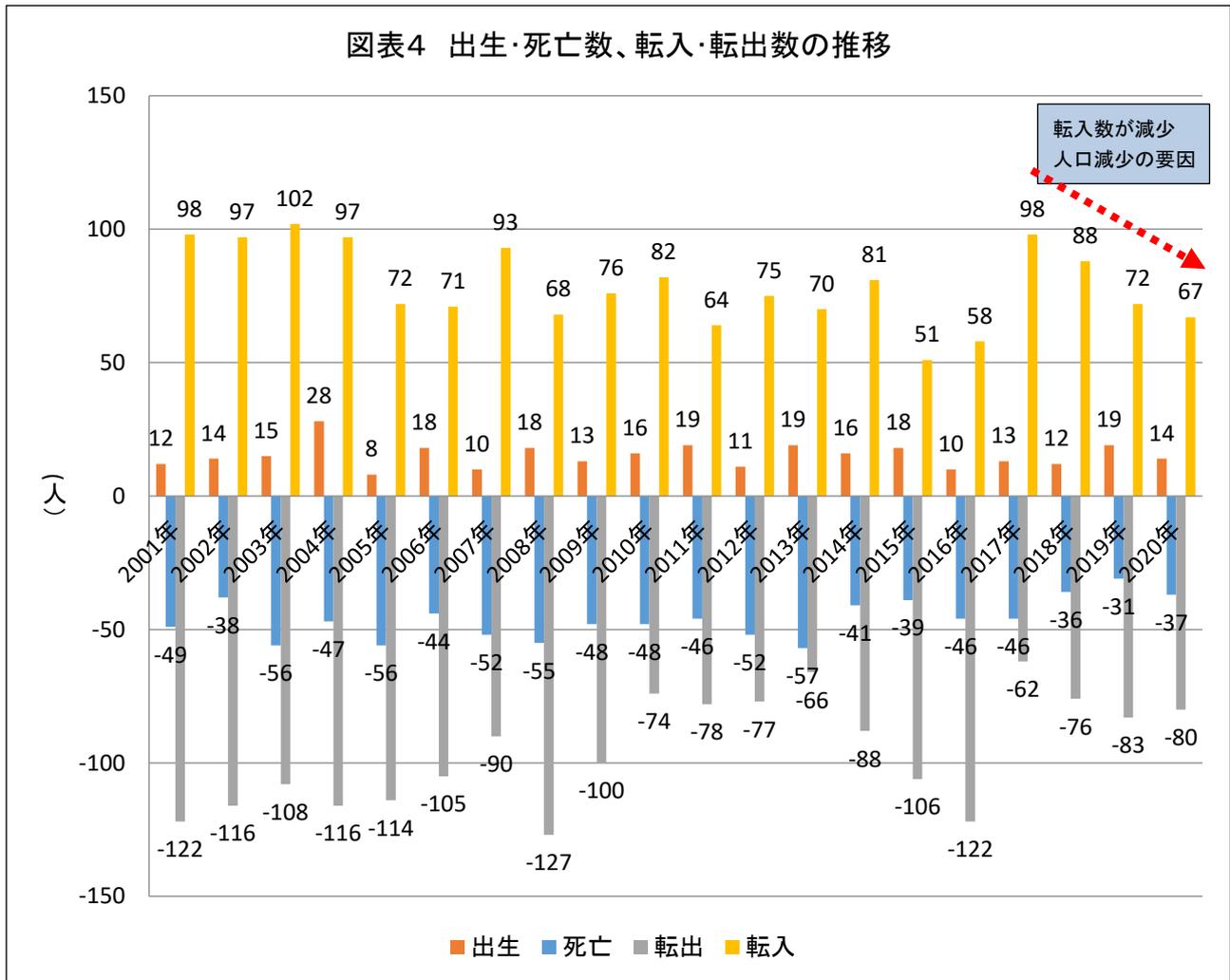
※住民基本台帳人口1月1日

4. 出生・死亡・転入・転出数の推移

○2020年の人口動態は次のとおりであった。

- ・出生数：14人(前年比5人減)
- ・死亡数：37人(前年比6人増)
- ・転入数：67人(前年比5人減)
- ・転出数：80人(前年比3人減)

○直近3年間の動向をみると、出生・死亡・転出数は概ね横ばいで推移しているが、転入数が減少しており、人口減少進行の要因となっている。

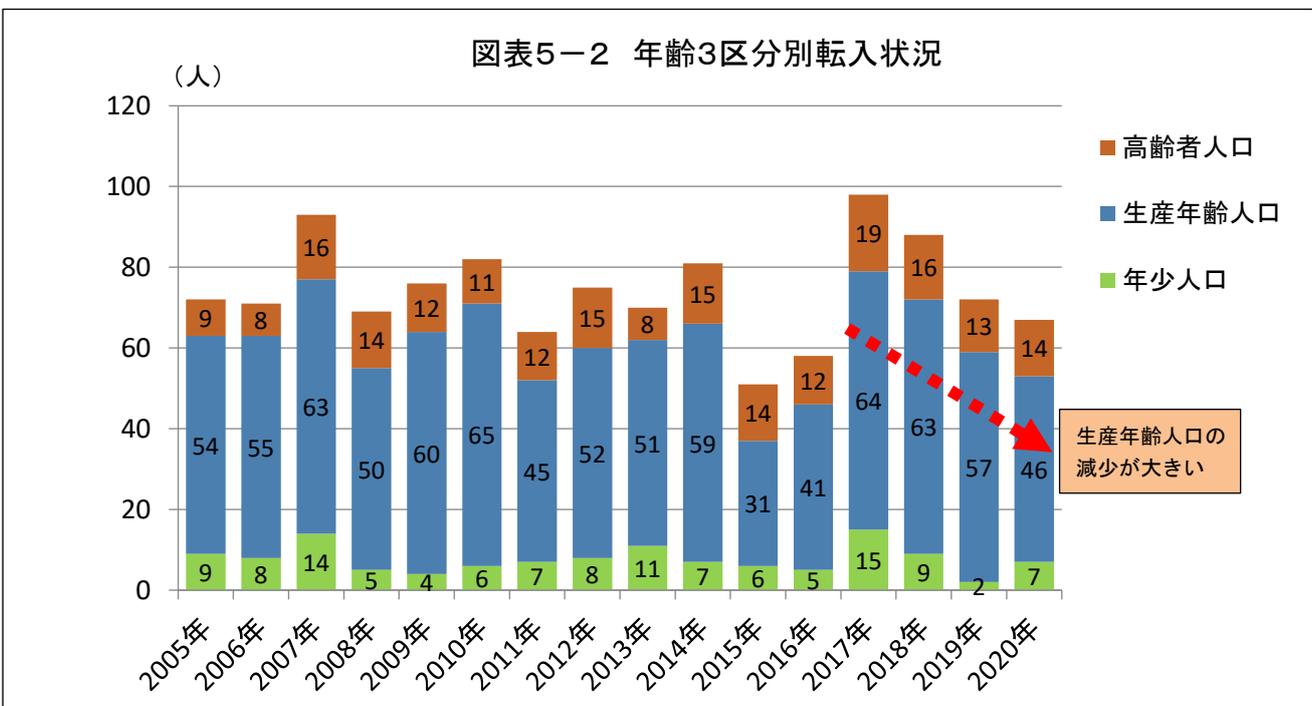
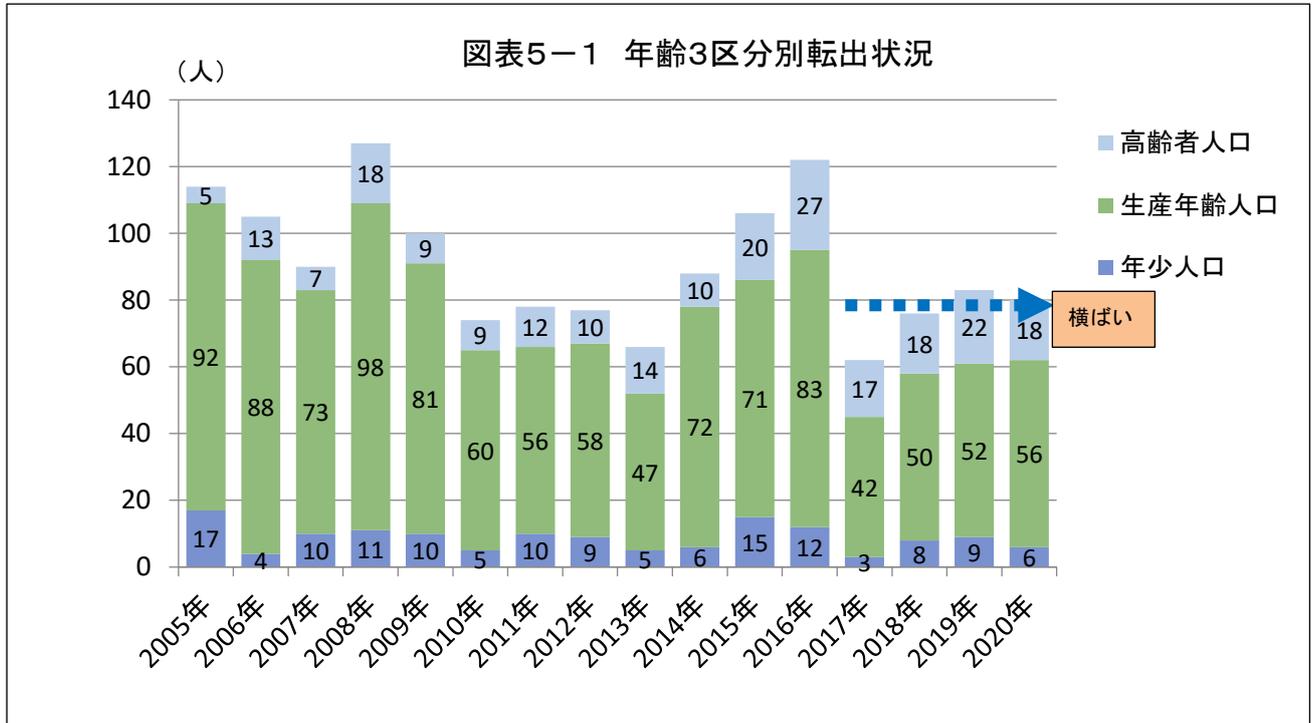


※住民基本台帳人口・世帯数及び人口動態(2001-2004年)

※2005年以降 住民基本台帳情報(人口動態1月から12月)

5. 年齢3区分別人口移動の状況

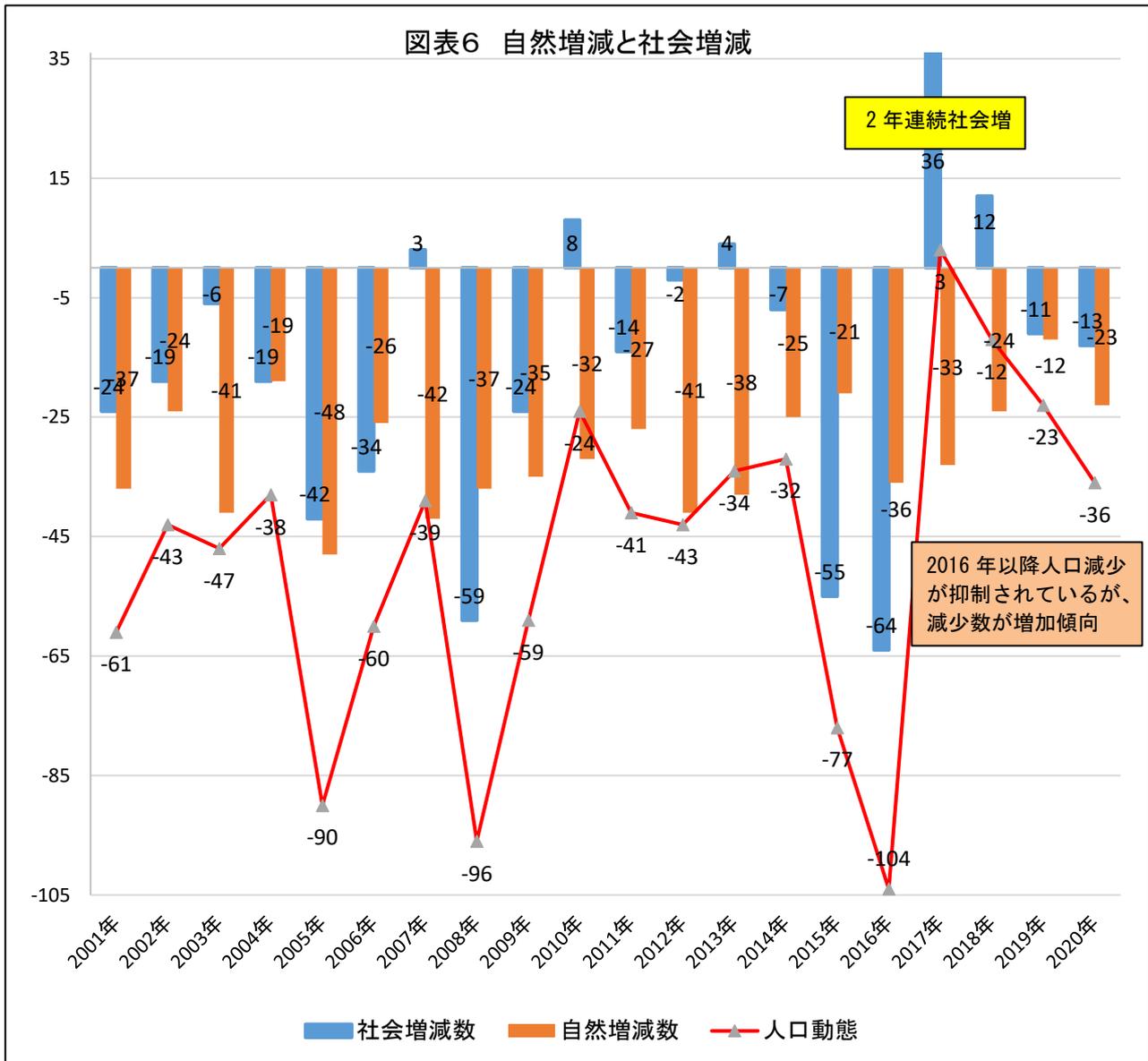
- 直近3年間(2018年～2020年)の年齢区分別転出数は、各区分とも概ね横ばいで推移している。
- 一方、年齢区分別転入数は、各年齢区分ともに減少傾向にある。特に生産年齢人口の減少割合が高くなっている。



※住民基本台帳情報(1月から12月)

6. 自然増減・社会増減

- 2020年の自然増減(出生数－死亡数):23人の自然減。
- 2020年の社会増減(転入数－転出数):13人の社会減。
- 自然増減数をみると、2019年は過去20年間で最も少ない12人の自然減少となっている。
- 社会増減については、2017年、2018年は社会増になった。2019年から再び社会減となっているが、減少数は10人前半を保っている。



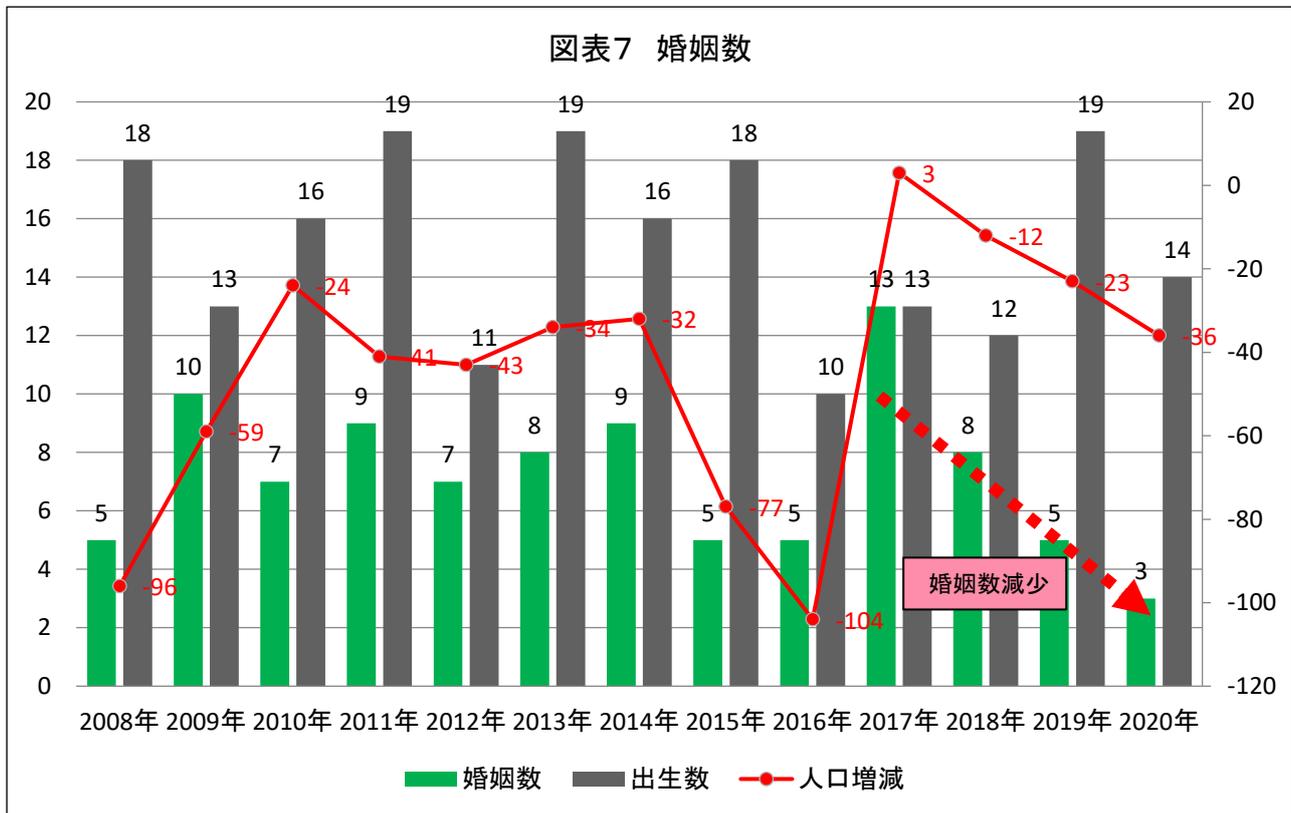
※住民基本台帳人口・世帯数及び人口動態より作成(2001-2004年)

※2005年以降 住民基本台帳情報より作成(1月から12月)

7. 婚姻数の推移

○2020年の婚姻数は、3組と近年では最も少なかった。婚姻数の減少は、将来の出生数に影響を及ぼすと考えられる。

○全国的に新型コロナウイルス感染症の影響により、経済活動の停滞を通じて雇用・就業への不安や外出自粛等による若者の出会いの場が失われるなど、結婚をしたい若者等の希望実現への障害になっている可能性がある。

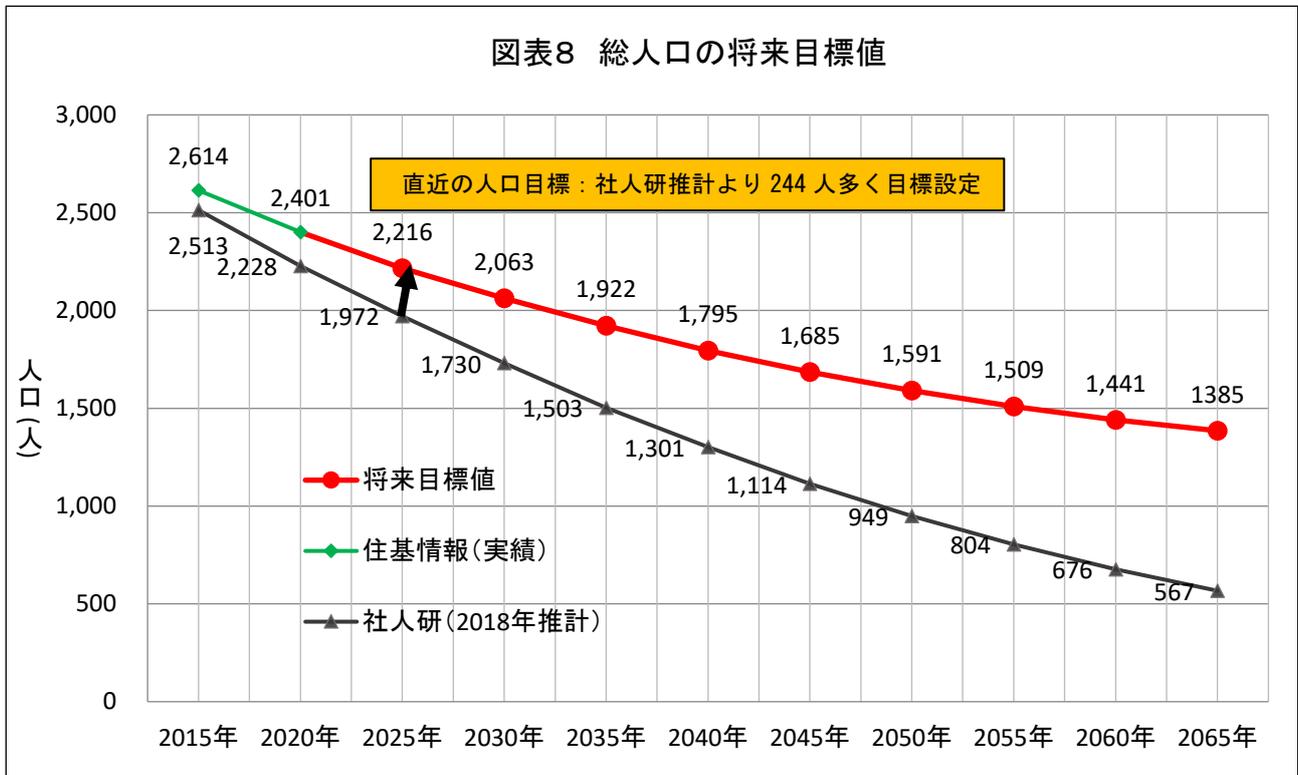


※2008～2017年度 夫婦ともに40歳未満

※2018年度以降 夫婦平均40歳未満

8. 総人口の将来目標

- 第2期秩父別町人口ビジョンで掲げた2025年の将来目標は、2,216人であり、国立社会保障・人口問題研究所2018年推計値1,972人よりも244人多く設定している。
- 2021年の人口が2,365人であり、目標達成には今後4年間の人口減少を149人以下、1年平均37.25人以下に抑えなければならない。



※第2期秩父別町人口ビジョン